

# 検査の説明と結果の見方

健(検)診の目的は、病気の早期発見、早期治療です。検査の説明と結果から疑われる病気や症状の一例をご紹介しますので、参考にしてください。  
健(検)診は、自分の体を見つめ直す大切な機会です。ご自身の健康管理にぜひ、お役立てください。

検査項目		検査の説明	疑われる病気の一例
身体計測		体格指数BMI(体重kg÷身長m÷身長m)は、肥満の有無を判断し、腹囲はメタボリックシンドロームの診断基準の一つです。	肥満:動脈硬化や高血圧・脂質異常症・糖尿病などの生活習慣病 やせ:低栄養、消化器系や代謝・内分泌系の病気
視力		視力障害・視機能の低下の有無を調べます。	低値:近視、乱視、遠視
聴力		聴力障害の有無を調べます。	難聴
血圧		心臓のポンプ機能や血管の状態が正常かどうかわかります。	高値:高血圧症、動脈硬化 低値:低血圧症
尿	尿蛋白	腎機能が低下すると体にとって必要な蛋白が腎臓からもれ出てきます。	陽性:CKD(慢性腎臓病)、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、ネフローゼ症候群
	尿糖	尿中の糖の有無を調べます。	陽性:糖尿病、腎性糖尿
	尿潜血	尿に血液が混じっていないかを調べます。	陽性:糸球体腎炎、膀胱炎、尿路結石
	ウビリノーゲン	肝臓に異常があると尿中に多く出ます。	陽性:肝障害、溶結性貧血 陰性:胆道閉塞
肺機能	%肺活量	同じ年齢・性別・身長肺活量の標準値と比較し、肺の硬さ、広がりをみます。	低値:肺線維症、間質性肺炎
	1秒率	最大に息を吸い込んでから一気に吐き出す時の最初の1秒間に吐き出した空気の量の割合で、気道のとおりやすさをみます。	低値:肺炎腫、COPD(慢性閉塞性肺疾患) 慢性気管支炎、気管支喘息
眼圧		眼球の内圧の変化をみます。	高値:高眼圧症、緑内障 低値:網膜剥離、外傷
肝機能	AST	主に肝臓に多く含まれる酵素で、肝臓の細胞が壊れると血液に出てきます。ASTは心筋内にも多く含まれているため、ASTのみが高値である場合、心疾患・筋肉疾患が疑われます。	高値:肝炎、肝硬変、脂肪肝 ASTのみ高値:心筋梗塞、筋肉疾患
	ALT		
	γ-GT	主に肝臓に多く含まれる酵素です。	高値:アルコール性肝障害、肝炎、胆道閉塞、薬剤性肝障害
	ALP	肝臓、胆道、骨、腎臓、小腸などに多く含まれる酵素です。これらの臓器に障害があると高値を示します。	高値:閉塞性黄疸、胆石、肝がん
	LD	肝臓や心臓、腎臓などの臓器の他、筋肉や肺、血球などにも含まれるため様々な病気で上昇します。	高値:肝炎、白血病、心筋梗塞
	Ch-E	肝臓のみで作られる酵素です。	高値:脂肪肝、糖尿病 低値:肝硬変、慢性肝炎、有機リン中毒
	T-BIL	肝臓や胆のう・胆道に異常があると、ビリルビンが血液中に増え、黄疸が現れます。黄疸がないかをみます。	高値:肝炎、閉塞性黄疸、胆石症
	D-BIL		高値:肝炎、肝硬変、閉塞性黄疸
	TP	血中の総タンパクの量です。肝機能・腎機能をはじめ、栄養状態を見る指標となります。	高値:慢性肝炎、脱水症、多発性骨髄腫 低値:肝硬変、栄養障害、ネフローゼ症候群
	ALB	血清蛋白の中で最も多い成分で、栄養状態や肝機能障害やネフローゼ症候群の指標となります。	低値:肝臓障害、栄養不足、ネフローゼ症候群
A/G	アルブミン(ALB)とグロブリン(TP-ALB)の比率から肝臓や腎臓の疾患を予測します。	低値:肝炎、肝硬変、ネフローゼ症候群	
脂質	T-Cho	多くなりすぎると動脈硬化を進行させます。主に、HDL-Cho、LDL-Cho、TGから算出されます。	高値:脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症 低値:甲状腺機能亢進症、肝硬変
	TG	多くなりすぎると動脈硬化を進行させます。食事の影響で高値になります。	高値:脂質異常症、脂肪肝、動脈硬化症、甲状腺機能低下症 低値:低栄養、甲状腺機能亢進症
	HDL-Cho	善玉コレステロールとも呼ばれます。血中の余分なコレステロールを回収して肝臓に運び、動脈硬化を防ぐ役割をします。	低値:脂質異常症、動脈硬化
	LDL-Cho	悪玉コレステロールとも呼ばれます。多すぎると、血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させます。	高値:脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症 低値:甲状腺機能亢進症、肝硬変
	non-HDL-Cho	T-ChoからHDL-Choを引いたものです。高い場合は、動脈硬化のリスクが高まっている状態であることを示します。	高値:脂質異常症、動脈硬化症、甲状腺機能低下症 低値:栄養吸収障害、肝硬変

検査項目		検査の説明	疑われる病気の一例
糖代謝	血糖	血液中のブドウ糖の有無を調べます。当日の食事の影響で高値になります。	高値：糖尿病、慢性膵炎
	HbA1c(NGSP)	採血時より過去1～2か月の血糖の状態を表します。当日の食事や運動などの影響を受けないので、血糖値のコントロールの状態がわかります。	高値：糖尿病 低値：溶血性貧血
白血球		細菌などに感染し炎症を起こすと増加します。また、数が減少すると身体の防御反応が低下し病原体に感染しやすくなります。	高値：細菌感染、炎症、心筋梗塞、腫瘍、白血病 低値：ウイルス感染症、再生不良性貧血、薬剤アレルギー
血小板(PLT)		血小板は、出血を止める役割をしています。高い場合は血栓(血のかたまり)ができやすくなり、低い場合は出血しやすくなります。	高値：血小板血症、鉄欠乏性貧血、慢性骨髄性白血球 低値：特発性血小板減少性紫斑病、急性白血病
貧血	RBC	赤血球は酸素を全身に運ぶ働きをしています。主に貧血の有無を調べます。	高値：多血症 低値：貧血
	Hb	赤血球に含まれる赤色色素たんぱく質です。血液中の酸素を運ぶ働きをします。	高値：多血症、脱水症 低値：鉄欠乏性貧血
	Ht	血液中に含まれる赤血球の容積を示した値です。	高値：多血症、脱水症 低値：貧血
	Fe	鉄欠乏や鉄過剰の病態を把握し貧血の原因の鑑別の指標となります。	高値：再生不良性貧血、急性肝炎 低値：鉄欠乏性貧血、がん、感染症
腎機能	BUN	血液中の尿素に含まれる窒素の量で、最終的に肝臓で分解されて作られる老廃物です。腎機能を知るための指標の一つです。	高値：腎機能障害、脱水症 低値：低栄養
	CRE	老廃物の一種で、腎臓の状態を示す手がかりとなります。腎機能が低下すると、ろ過されずに体内にたまるようになります。	高値：糸球体腎症、腎機能障害 低値：筋ジストロフィー
	e-GFR	腎臓の働きを調べます。腎臓が1分間にどれだけの血液を処理して、毒素を排出することがきるかを示しています。	低値：CKD(慢性腎臓病)
尿酸(UA)		尿酸は、たんぱく質の一種であるプリン体という物質が代謝された後の残りかすのようなものです。尿酸の産生・排泄のバランスがとれているかどうかを調べます。	高値：高尿酸血症(痛風)、腎不全
膵	アミラーゼ	糖質を分解する消化酵素の一つで、膵臓や唾液腺から分泌されます。	高値：急性・慢性膵炎、腎不全、膵臓がん 低値：進行した慢性膵炎
肝炎ウイルス	HBs抗原	B型肝炎ウイルスの存在を調べます。	高値/陽性：B型肝炎
	HBs抗体	B型肝炎ウイルスの抗体価(過去に感染したことがある、または予防接種(ワクチン接種)による免疫がある)を調べます。	高値/陽性：過去にB型肝炎にかかったことがある、予防接種(ワクチン接種)を受けた
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスの存在を調べます。HCV抗体が基準値を超えている場合、HCV-RNAの検査を順次行い、「現在、感染している」かどうかの判定を行います。	高値/陽性：C型肝炎に感染している
	HCV-RNA		
腫瘍マーカー	SCC(扁平上皮がん関連抗原)	腫瘍マーカーの値は、体の中にあるがん細胞の量や活動に比例して変化することがあり、高値の時はがんの可能性があるので、医療機関を受診してください。	高値：肺がん、食道がん、子宮頸がん
	抗p53抗体		高値：大腸がん、食道がん、乳がん
	CEA		高値：肺がん、食道がん、胃がん、大腸がん、胆道がん、膵臓がん、甲状腺がん、乳がん、子宮頸がん
	CYFRA(シワ)		高値：肺がん
	CA19-9		高値：胃がん、大腸がん、胆道がん、膵臓がん
	AFP		高値：肝臓がん
	PSA		高値：前立腺がん
CA125	高値：卵巣がん		

検査項目		検査の説明
心電図		心臓の状態をチェックし、異常がないかを調べます。不整脈があるか、心筋の血液循環が不良(狭心症)になっていないか、心筋が壊死(心筋梗塞)していないか、などがわかります。
眼底		目の奥の状態を調べる検査です。動脈硬化の程度、高血圧、糖尿病による眼の合併症や緑内障・白内障の有無などを調べます。
腹部超音波		腹部皮膚表面部分に超音波を発信する装置をあてて内臓の状態を調べる検査です。肝臓、脾臓、腎臓に腫瘍があるか、胆のうには胆石などがあるかを調べます。
胸部X線検査		胸部に背後からX線を照射します。肺炎、肺結核、肺がん、肺気腫、胸水、気胸など、呼吸器の疾患または心拡大など循環器の疾患の有無、その程度がわかります。
喀痰細胞診		痰の中にがん細胞がないかを調べます。
胃検査	胃部X線	造影剤のバリウム液を飲んで、食道から胃、十二指腸までをX線写真で映し出す検査です。胃、十二指腸のポリープ、潰瘍やがんなどが発見できます。
	胃内視鏡	口または鼻から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸の内腔を観察します。食道がん、逆流性食道炎、胃炎、胃潰瘍、胃がん、胃ポリープ、十二指腸潰瘍などの病気の発見に有用です。
大腸(便潜血検査)検査		便に血が混じているかどうかをしらべる検査です。 陽性:大腸がん、大腸ポリープ、大腸炎
子宮頸部検査		陰口から細い器具を挿入し、子宮頸部の粘膜から細胞を採取して、顕微鏡で調べる検査です。子宮頸がんの早期発見につながります。
乳房検査	マンモグラフィ	乳房の病変をX線(マンモグラフィ)を使って調べます。病変がある場合、良性か悪性かの判断の指針となります。早期の乳がん(石灰化)なども発見することができます。
	超音波	超音波の反射を利用して乳腺を解析・画像化します。しこりの形状や石灰化のようす、腫瘍の有無などを診断します。
骨密度検査		超音波を用いて骨量を測定し、将来の骨折リスクを予測します。

## 感染症抗体検査について

各感染症の抗体価(過去に感染したことがある、または予防接種(ワクチン接種)による免疫がある)を調べます。今回の抗体検査の結果値と下表をご確認いただき「予防接種必要」となった方は、結果票を持参のうえ医療機関にご相談ください。  
※なお、結果値は検査時点の免疫状態を示し、長期の免疫状態を証明するものではありません。

検査項目	あと2回 予防接種が必要	あと1回予防接種が必要	今すぐの予防接種は不要	今すぐの予防接種は不要
	抗体価陰性	抗体価陽性 (基準を満たさない)	抗体価陽性 (基準を満たす)	抗体価陽性 (基準を満たす)
風疹(HI)	8倍未満	8倍以上～32倍未満	32倍以上	32倍以上
風疹IgG(EIA)	2.0未満	2.0以上～8.0未満	8.0以上	8.0以上
麻疹IgG(EIA)	2.0未満	2.0以上～16.0未満	16.0以上	16.0以上
ムンプスIgG(EIA)	2.0未満	2.0以上～4.0未満	4.0以上	4.0以上
水痘・帯状疱疹IgG(EIA)	2.0未満	2.0以上～4.0未満	4.0以上	4.0以上

※日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン第4版(2024)」に基づく